

◆分散型TEKU-TEKUその10★豆州下田のまちづくり(活動記録+評価結果)◆

企画■豆州下田のまちづくり～下田中心街を歩く～(分散型・集合型まち歩き併用企画)

日時■企画説明 2022年5月14日(土) 20時～22時 (オンラインにて開催)

歩く期間 2022年5月15日(日)～6月30日(木)(この間に各自で歩く)

※2022年6月18日(土) 13時～17時 集合型街歩き開催(参加10名)

標準コース■伊豆急下田駅☆～香煎通り～ナズビレッジ～雑忠・なまこ壁スクエア★～ひもの横丁・石亀水産～大川端カッパ～タ構想☆～大工町プレイス+弁天橋ボードウォーク★～旧澤村邸～ペリーロード★～了仙寺～ハンギングバスケット通り～矢折れ交差点☆～マイマイ通り+沿道社寺参道☆
(★評価対象、☆まちづくり提案対象)

企画・当日案内■安藤 泰(コーディネーター)、下田市・鈴木主事+中島技師

参加者■上野朋子、大竹 亮、梶川義実、栗原 徹、西田 敬、二瓶正史、藤井正男*、古里 実、堀川雅代、松野栄明、村田英樹*、横田宜明(以上12名 *集合型街歩き以外で参加)

企画主旨■今回は地方都市中心街の魅力づくりとして、豆州下田のまちづくりを採り上げます。伊豆半島最南端の下田は古くからの重要な港町であり、幕末に滞在したペリー提督が歩いた川沿いの道や、中心街に連なる伊豆石やなまこ壁の町家など、歴史的自然的文化的な資源に恵まれ、これらを活かしたまちづくりが進みつつあります。今回は、地元の建築家で行政関係会議に多く参加している安藤泰氏から、下田の現状と課題や今後の方向などを語っていただき、実際に現地を歩いてその魅力を体感するとともに、将来について考えたいと思います。ちなみに、下田は100回目のTEKU-TEKU(1999年10月)で訪問した記念すべき都市です。あれから20年以上が経って街がどう変わったか、現在の姿を見て歩きましょう。

参加者による評価結果とコメント■以下に記載の通り

(注) 評価は、A非常に良い、B良い、C普通、D良くないの4段階。

コメントは評価の理由、感じたこと、考えたことなど。



下田中心街/大工町プレイス(ポケットパーク)



下田中心街/ペリーロード(川沿いの散歩道)

1 ■ 下田中心街(旧町エリア) 全体について

評価:3.36 内訳:AAABBBBBBBC

評価A◆下田は伊豆半島の南端にあって自然に恵まれている土地だが、特に中心街はなまこ壁の旧家やペリーロード周辺など歴史伝統資源が多く残り、漁業や水産加工に関連した昔ながらの産業生活文化が今も生きる貴重な場である。しかもコンパクトで歩きやすく、通過交通が少なく、個性的な場所が点在して回遊性もあり、快適で楽しい魅力的な街になっている。

評価A◆江戸時代からの街の骨格がきちっとあり、そこそこに伝統的建造物が残っている生活感がある街並みに好感がもてた。

評価A◆事前の期待より面白かった。駅とペリーロードの間も楽しく散策できるようなまちづくりに期待します。

評価B◆海と山に囲まれ、コンパクトで高密度な街並みが形成されており、なまこ壁や伊豆石を使った個性ある建物など、まちづくりの資源には非常に恵まれている。ペリーロードのように整備されて賑わっているエリアもあるが、中心街全体としてみると、まだ資源が十分に活用されているとはいえない。

評価B◆街なかに整備された街角がインフィルされていて、歩いていて何か発見したようで楽しい。半日で歩ける街なかに景観資源などポテンシャルがあり、小さな整備を連続させることによる今後の可能性を感じた。

- 評価B◆街路に対し開いている店舗や、街路を意識し花等を飾っている住宅が多く、歩いて楽しい街だと感じた。
- 評価B◆こじんまりとまとまっており、歴史があり、食があり、青い空と海のある、まちづくりのポテンシャルの高いまちである。安藤さん、市の取組みが今後楽しみである。
- 評価B◆下田駅は駅前広場の植栽に若干リゾート感を感じられたが、歴史は感じられなかった。旧町エリアを歩けばそこここ下田の歴史を感じられる建物や空間があるが、全体として一見さんには魅力を感じにくい。伊豆石となまこ壁があちこちに見えるように修景すると、「下田に来た」という満足感を得られると思う。
- 評価B◆ペリーロードは、独特の港町の風情があり、魅力的だが、鉄道駅からペリーロードの間の旧市街は道がよくわからず、パツとしない印象。駅から海への動線も分かりにくく、もったいない。
- 評価B◆長い時間に形成されてきたいろいろな時代の建物と外部空間が多様に利用されつつある。これからもっと魅力的になることを考えてのB。
- 評価C◆先行して景観整備の進んだペリーロードを除くと、賑わいも修景も点から面に展開する今後に期待と感じました。

2■ 下田中心街で特に印象的だった場所（3つ挙げてください）

- なまこ壁スクエア（雑忠）★建物の保全と道路修景によって質の高い一角を形成している。
- 旧鈴木邸（雑忠）★地元の材料や職人を使ってきちんと造った建物を、きちんと維持している意思が素晴らしい。
- ひもの横丁★昔からの生業と生活が今でも息づいているみち環境が魅力的。
- 大工町プレイス★レトロな看板と伊豆石による修景が個性的で、道路の修景と相まってペリーロードにつながる軸線としてすばらしい。
- 大工町プレイス★ペリーロードからの展開の広がり期待を持てます。
- 大工町プレイス★隣の酒蔵の大きな宣伝看板を残してところが良い。ポケットパークの場所を引き立てている。
- アケゴコロの看板と大工町プレイス★事前説明で写真を見た以上の衝撃でした。街の人や来訪者に上手く使ってもらえると良いと思います。
- アケゴコロの広場（大工町プレイス）周辺★事前に写真で見た時より、隣の酒屋さんとマッチして良い雰囲気。親水性の水路と伊豆石の壁が素敵。夏の間はライトアップして、ビールが飲めるようにしても良いかも。
- アケゴコロ（大工町プレイス）★この看板のインパクトはスゴイ。
- ペリーロード★川辺の路地的空間として歩いて心地良い空間を形成している。マッシュズスクエアもそのスケールを引き込み小気味よい。
- ペリーロード★下田の重要な歴史にゆかりの道と建物群が、現代的に蘇っている。
- ペリーロード★1992年頃に訪問したところと変わりなく、日本らしいたたずまいを維持している。
- ペリーロード★団体ツアーのルートになり、街並みに賑わいがあります。
- ペリーロード★平滑川と護岸、橋、沿道の建物、抜ける路地とまち空間の魅力が満載。建物の使われ方も多様で楽しい。
- ペリーロード周辺★伝統的建物の集積や川端の雰囲気、物語性が最高。全国的に見ても一級の「歴まち」と思う。
- ペリーロード沿いの喫茶店★なまこ壁に伊豆石を使った建物が印象的。
- ハンギングバスケット通り★ペチュニア等色とりどりの花が通りの塀や壁に置かれ、町を華やかにしている。
- ハンギングバスケット通り★自分たちの街をきれいに、自分たちだけではなく来る人も楽しませようとする気持ちが良い。



下田中心街／海の町らしい一角「ひもの横丁」



下田中心街／ハンギングバスケット通りの商店

矢折れ交差点★交差点に町の作りが現れることに興味を持ちました。

矢折れ交差点★時代の異なった近世の町割がここでズレを生じているとの説明だが、2方向の道がズレ4つのアイストップを構成しているのは珍しいと感じた。しかもそれぞれの道は振り向くと遠景の山がビスタとなっている。恐るべき近世の道路計画？

賀楽太★魚が美味しいだけでなく、建物は街のアイストップに。

賀楽太(我楽多)+やまね旅館★旧市街にこういう居心地の良い場所があるのはうれしい。

泰平寺★洗練されたデザインで構成され、本堂、観音堂、庫裏を取り囲む水蓮の池、パーゴラ、ヤシ、山門とコンクリート打放し堀、参道が全体として調和している。庫裏と本堂を結ぶガラス張りの回廊等寺院建築の特徴や様式を活かしつつ近代的な装い、庫裏の壁画の陰影と美しい水蓮の花の対比がすばらしい。

泰平寺★蓮池とそこに浮かぶように配置された本堂建築群が秀逸。

泰平寺★参道、境内、水蓮の池を前にしたお堂の佇まいなど、禅の世界を感じられた。

泰平寺★卓越した建築が現代における寺院の役割を具現化している。

泰平寺★水面を活かした空間構成が素晴らしい。

コンクリート舗装による道路修景★現場打ちコンクリートでコミュニティ道路の修景を行う発想は全く無かった。インターロッキングブロックより安価で維持管理も楽そう。どのように設計・施工したのか知りたい。

下田まち遺産として登録されている伝統的建造物群★景観計画の中に「下田まち遺産」として登録する仕組みをつくり、1軒ずつ修復していく取組みが良い。

3 ■ 整備済(整備中)の3つの地区の評価とその印象

3-1 ■ 雑忠エリア=なまこ壁スクエアの街並み修景

評価:4.00 内訳:AAAAABBBBB

評価A◆重厚ななまこ壁の雑忠の建物は圧倒的な存在感を放っている。2棟の間の通りの整備が始まっており、沿道には伊豆石のガレージなどもあるので、これらをうまく再生・活用できれば面白い通りになる。

評価A◆下田を象徴するなまこ壁と伊豆石の立派な旧家が保存修景され、高水準な景観形成によってシンボリックな一帯となってる。なまこ壁の建物は旧市街に点在するので、こうした場所が増えて繋がっていくといい。

評価A◆切交模様の道路、なまこ壁の景観はとても良かったです。

評価A◆なまこ壁の建物がきれいに保全され、道路修景と一体となって質の高い一角を形成している。

評価A◆豆州下田を印象付けるエリア。徐々に広がると良い。

評価B◆雑忠(鈴木忠吉家住宅)と道を挟んだ古民家「鈴木邸」、その間の住吉稻荷神社へ続く南北方向が美舗装する予定と聞いた。この一角にはなまこ壁の古民家が集積している。神社隣の再整備された一郭からの連続性が期待される。

評価B◆整備中とのことで、現在は点から建物改修による修景を進めているところに見えました。面的な展開を考えました。

評価B◆なまこ壁を特徴とする建物の修復が少しずつ進んでいるが、建物の活用がされているのか少し心配である。「動態保存」に繋げてほしい。

評価B◆過剰ななまこ壁の建物に圧倒された。

評価B◆修景された建物が少しずつ増えて、下田らしいまちなみの風景が感じられる。コンクリート舗装の道路は目地が面を感じさせて、場所性を生み出している。ところどころに瓦の廃品を利用した砕骨材を入れて洗い出したら面白いのでは？



なまこ壁と伊豆石の豪壮な旧家が並ぶ雑忠エリア



二棟の旧家を保存修景し、その間の道路を美舗装

3-2 ■ 大工町プレイス～弁天橋ボードウォーク一帯

評価:4.60 内訳:AAAAAAAABB

- 評価A◆ペリーロードの人の流れを大川端や旧市街につなぐエリアとして、ボードウォーク、ポケットパーク、通り抜け通路などがうまく配置され、自然に歩きたくなる空間となっている。
- 評価A◆アケゴコロの文字は圧巻。ポケット広場と隣の酒蔵ギャラリーとの組み合わせもいい。ボードウォークはパレット再利用で開放的なスペース。その間の遊歩道も整備されて、旧市街からペリーロードへつなぐ散策路が形成されつつある。
- 評価A◆河川管理用地に歩行者専用道路、そこにウッドデッキを設置してポケットパークを整備、さらにカフェまで整備している。Google Mapの整備前の写真で、現在と比較できる。雑然とした土地がうまく利用されている。また、昭和湯から大工町プレイスまで道路が美装化され、ペリーロードの周遊路が整備された。
- 評価A◆昭和湯、キッチンカフェ、ボードウォーク、港という海で栄えた下田の下町を感じられた。アケゴコロブランドは復活できないか。
- 評価A◆特に大工町プレイスは港の景観とマッチして素晴らしい。パレットを再利用したベンチも面白く、夕方くらいにゴロゴロしたいと思った。
- 評価A◆整備の際があれば、一角を快適に歩き、憩える空間として埋め込むことが効果を示す良い例。
- 評価A◆舗装や縁石、ストリートファニチャーや植栽などよく考えられている。
- 評価A◆水辺空間と隣接建物や空気を繋いでいて、楽しく歩ける。
- 評価B◆人の流れを上手く誘導できる仕掛けとなっていると感じました。
- 評価B◆観光ルートから外れているようで厳しい感じでしたが、今後に期待。



大工町プレイスからペリーロードへ続く散歩道



弁天橋ボードウォークとパレット再利用の小広場

3-3 ■ ペリーロード周辺

評価:4.27 内訳:AAAAAABBBB

- 評価A◆川沿いに残る風情ある建物がうまく活かされ、魅力的で快適な歩行者の散歩道になっている。観光地らしくないカフェや店舗の洒落た雰囲気もいい。入口の旧澤村邸と終点の了仙寺が立ち寄り拠点となっているが、中ほどの一角に新規建築でインフィルされたマッシュズスクエアも素晴らしい。
- 評価A◆ペリーロードの旧料亭のカフェなどは、独特の港町の風情があり、気持ちがいい。なまこ壁に伊豆石を使った建物はエキゾチックな感じがする。
- 評価A◆川沿いに柳が風にたなびき、周囲の古民家と相まって美しい景観を形成している。30年以上前に訪れた時と変わらずのたたずまいを残している。
- 評価A◆魅力的な店舗も張り付いており、ゆっくり見物したい。元茶屋だった建物の2階も行ってみたい。
- 評価A◆歴史的建物の活用が広く展開していて、歩いて楽しいまちになっている。
- 評価A◆本当にペリーの一行が行進したのか？と思う道の狭さであるが、紫陽花や柳も含め風情を感じられる。夜は京都の木屋町辺りの景観のようになるのだろうか。
- 評価A◆川に面して趣きのある建築物が連なっており、とてもいい雰囲気を生み出している。完全に観光地になっているので、これ以上街が荒れないようにする工夫が必要だと思う。
- 評価B◆団体ツアーの観光ルートになっているようで、観光客相手の商店が成立しつつ歴史的景観が形成されていました。
- 評価B◆観光客向けのお店が並び、生活感のある旧町とは異なる雰囲気になっている。川沿いの小道はアジサイなどの花もきれいで、楽しく歩けた。
- 評価B◆緑が茂り、雨に濡れるアジサイが咲き誇り、適度に観光客がいて楽しい場所となっていると思いました。

評価B◆ペリーロード自体は川辺の路地的空間として高く評価できるが、一部飲食のテントがあったり、プラスチックのコンテナが放置されたりしており、せっかくの景観を台無しにしていたのが残念。住まい手の意識疎通が課題か。



川沿いの古建築が活用されているペリーロード



一角に新規にインフィルされたマッシュブスクエア

4 ■ 今後整備すべき地区の現状評価と提案

4-1 ■ 伊豆急下田駅周辺及び中心街へのアクセスについて

●伊豆急下田駅は、降車口と乗車口が別でターミナルの雰囲気がある立派な駅。しかし、駅の役割は南伊豆一帯の観光地へのアクセス拠点であり、下田旧市街の玄関口としての意味合いは乏しい。そこで、降車口はやはりもう少し広さと開放性・見通しが欲しい（ガラス張りで南洋植物が見えるように）し、駅前広場を進んで横断歩道への誘導動線を明確化したい。その先の中心街へのアクセスは、香焙通りから新田通り・旧新田を歩くことでいいのではないかと（魅力的なお店も点在するので）。駅の名称は、「豆州下田」だろうか。

●伊豆急下田駅については、頭端式駅であるので、その特徴を活かした駅舎のファサード整備を期待したい。

●終着駅という駅舎の特性を活かして、電車から降りた時に下田に来たという風景をつくりだす。駅から寝姿山が美しく見えるようにする。魅力的な駅前広場をつくり、そこから中心地への歩行者空間をつなげて、楽しく歩きはじめられるようにする。

●電車から降りて終端部に少しのわくわく感があるが、集札口正面からは外が見えず、かなり残念。駅を出ると海のリゾート下田が感じられるように改造したい。駅～カシパータ～ペリーロード～ハンギングバスケット通りを回遊ルートとして際立たせるとよいのではないかと。

●香焙通りがゲートになるので、駅からこの通りがより認識されるよう工夫が必要。

●駅構内から駅前広場周辺はにぎわっている感じがあるが、旧市街は人が少なく寂しい。旧市街にも伊豆石の建物や風情のあるお店が残っており、今後そういう建物を活用した古カフェ系が点在してくれば、自然に人の流れもできてくるのが期待される。

●今の若い人は、SNS上の情報を見た上で、歩き方を想定して訪れているように思います。交差点等に一定の案内をつけたうえで、自由に歩く仕組みがよいと思います。

●路線バスは、観光回遊目的としては機能していないように見えました。ただしこれは全国的な傾向です。観光訪問は、団体ツアーバスか、個人客は現地レンタカー移動に見えます。

●駅周辺は鉄道・バスの結節点であるとともに道路交通の結節点（国道135号・136号・414号）となっている。また、駅から商業施設（下田とうきゅう）や中心街に向かう人の横断が多く、夏の観光シーズンは大渋滞になっていると思う。伊豆縦貫自動車構想や市役所跡地の利用ができるこの機会に、国交省・駅まちデザインのような社会基盤整備の中で駅のデザインや駅からの眺望、駅名称などを考えていくことが必要だと思う。

●駅前の国道135号・136号の渋滞は現在でもかなり激しいと推察するところ。また、今後、伊豆縦貫自動車道路が供用されるにつれて、観光客も増加し渋滞も激しくなっていくことが予想される。（フィジビリティがあるかは不明だが）橋の手前から「蕎麦やいし塚」の交差点付近まで国道をバイパスとして立体化するのはどうだろうか。渋滞対策、線形の改良とあわせて、駅と中心街との一体化にも資する。具体的には、駅や駅前広場の再整備との合併事業として、現道は市道に移管してコミュニティ道路として再整備する。バスターミナルは駅舎の2階にあげ、直接バイパスに乗れるようにして、東急ストアは駅の地下に移転するなど。（立体道路制度の活用も可能かと思われる）。リニアが落ち着けば、県の財政にも余裕ができると思うので、そのあたりをターゲットに考えると良いかもしれない。

●国道136号線の交通量が多く、駅から中心街に入りにくいので、駅から中心街までブリッジをかけてはどうか（駅で2階レベルに上げ、東急ストアの道路を挟んで南側の駐車場まで、国道上にブリッジを渡すイメージ）。伊豆急下田駅は駅前広場の位置からみると東側をメインの出入口とすべきなので、ホームの南側に出口をつくったのは当初計画とは違うのではないか。ホームの位置を北側に移動させて、ホーム端と改札の間に十分な空間をとり、出口・入口とも東側の改札で処理すれば、駅を出て正面に駅前広場と寝姿山が見えるようになる。駅の名称については「豆州下田駅」を提案します。（井出建さんのマップのパクリですが）



終着ターミナル駅の風情がある伊豆急下田駅



防潮堤計画がある大川端カシッパータ構想の場所

4-2 ■ 大川端カシッパータ計画について

●漁港・港町として発祥した下田のまち、海と舟は生活と一体となってきた。その大川端の機能を生かして水辺を親しむ空間が整備され、駅からペリーロードに繋がれば町の魅力が一層増してくる。

●港町を感じられる場所である。漁船と海と山を見ながら海鮮を楽しめる空間になると良い。駐車場に仮設風の施設をつくり、干物や鰹節ごはんも食べられる場所になると良い。

●このエリアを整備することで、駅～カシッパータ～ペリーロードというルートができるので、これを下田中心街の観光のメインに据えるのが良いと思う。そのためには、カシッパータの歩行者空間整備だけでなく、緑道内に屋台を置いたり、周辺の建物の観光的な利活用、水上レストランやカフェ、船の活用をしたりするなど、戦略的な賑わいの演出が必要。

●見通しの効く一直線の水辺空間なので、防潮堤の整備と併せた荷上場や公園のデザインは、沿岸の干物屋、店舗、倉庫などの繋がりを意識した変化に富む生活感あふれるものにしていくと良いと思う。

●海と街が上手くつながるようになるとよいと思います。個人的には、今の昭和の埠頭感も好きです。

●下田は重要な港町であり、ウォーターフロントの活用が望まれる。ここが整備されると、雑忠スクエアやナンズビレッジから、ペリーロード方面への散策路となる。堤防が出来ても、旧市街から水辺の雰囲気や垣間見ることが出来て、つい誘われて足が向いてしまうような視覚効果も欲しい。また、公園的な弁天橋ボードウォークとは性格を変えて、漁業や水産加工（干物等）の現場としても機能することが、（歩きやすさを多少犠牲にしても）場の意味合いが持つ深みを増すと思う。名称の由来（河岸っ端）には笑いましたが、ステキなネーミングですね。

●海岸沿いをゆっくり散策できる道ができるといい。

●ペリーロードに向かって快適に海沿いを歩ける歩行者空間をつくる。

●小高い山に囲まれた船着場として、修景の意義と効果が期待できる場所と思います。

●これからの整備に期待。夕方の雰囲気が良いので、鴨川のほとりのように恋人が等間隔でイチャイチャする場所というコンセプトで整備すると良いのではないだろうか。

4-3 ■ 矢折れ交差点付近の再整備について

●大川端から八幡神社を結ぶ宮前通りのほぼ中央の不規則な交差点。ビューポイントとなる古民家に蔦の絡まる賀楽太。ハンギングバスケット通りの一角を構成している。公衆トイレも整備されている。交差点部分を美舗装化して車の減速を促し、お祭り広場とし、大道芸や紙芝居、イベント等が開催できる場にしてほしい。

●車も入ってくるので、空地も含め、矢折れであることがわかるようイメージハンプの舗装整備をしてはどうか。

●2方向の食違い交差点の空間特性を活かした道路の広場化。歩行者優先のボンエルフ道路として計画し、車は視覚的に徐行せざるえないような舗装線形や路面とする。駐車場で使われている土地にはふさわしい建物を建て、食違いの道路空間に抜けがないようにする。

●歴史的経緯から生じたこうした交差点は旧市街特有の存在だが、空き地が増えてその形状が不明瞭になると持ち味が激減してしまう。駐車場用地を転用し（他の遊休地等と交換し）、中心街に求められる（不足している）機能を導入したい。例えば、若者向けの起業スペース、屋台村形式の暫定ショップ、長屋スタイルの住居などが考えられる。近くには我楽多や山根旅館の他にも魅力的な商店（京染屋、鯉節屋など）が多かったのが、当面はとりあえず書割の塀を作って、フラワーハンギングで飾ったらどうだろうか。

●この交差点の独特の形状を活かすには、現状は駐車場になっている敷地に建物がある方が良い。やまね旅館は朝食が無いので、朝食も食べられる飲食店などができると面白い。

●賀楽太の緑に覆われた外観、やまね旅館は残して欲しいです。もう一軒昼間の店があるといいなと感じました。

●ずれた交差点のアイストップとなる建物が重要。街なかに何か楽しいことがありそうな期待感を抱かせる。

●アイストップに工夫を凝らして、矢折れが特徴的な景観となるよう工夫できると良いと思います。

●「矢折れ」は下田の街づくりの歴史の証人だと思い。道路標識も含め、意識できるように修復したい。

●街なみ環境整備で、目隠しをかねて板塀を設けて駐車場の出入口を明確にするようにしたらどうでしょうか？現在の駐車場形状は出入口がはっきりせず、交通安全上も非常に危険なので、警察から指導してもらおうと良いかもしれない。また、どちらかの道路を一方通行にして、歩道空間を広く取るような改修を併せて行っても良いかもしれない。



矢折れ交差点のアイストップ賀楽太と山根旅館



都市計画道路に分断された八幡神社の参道

4-4 ■ 都市計画道路による寺町の分断とその改善について

●山を背に並ぶ寺社の参道が分断されているのは残念だが、旧市街の内部から通過交通をなくしている効果は評価すべき。山裾にR136があって交通量がそれほど多くないので、信号機のサイクルを短めにして歩行者の待ち時間を減らしたらどうか。将来的には博多寺町・承天寺通りの事例（整備済の都市計画道路を一方通行にして歩道を広げ、寺町にふさわしく景観改修／博多千年門も）を参考に、コミュニティ道路化も視野に入れたい。

●やむを得ない部分もあると思います。泰平寺さんはじめ、入口が工夫されているので、あえて広幅員道路とゲートの対比を強調してはどうかと思いました。

●町が分断されてしまったのは残念だが、ある程度の交通をさばくための道路は必要。連続性を想起させるような敷石や灯籠などの設えで工夫しては。

●マイマイ道路の幅員は16m程度でそれほど広くないので、神社やお寺の参道を交差する部分について、繋がりを意識した分かり易いサインの整備や、横断歩道、イメージハンプの整備をしてみてもどうか。

●自動車交通量が多そうなので難しそうだが、当然歩行者が快適に歩ける環境を作るべき。歩道と寺の参道との接続点を修景して、ミニ広場やちょっと座れるところ、観光サインなどで楽しくする。

●細街路や路地で密集した木造住宅で構成された中心市街地の物流、火災延焼を防ぐ上で必要な道路だと思う。問題はかつて寺社と大川端を結ぶ東西方向の導線が不明確になったことで、町の歴史性が分断されたようだ。参道の名称を記したサインや道路修景による東西方向の導線に活かしていきたい。

●地図を見ると、ここに都市計画道路を通したかった気持ちはわかる。自動車交通のみを処理する空間ではなく、駅から寺町、パーリーロード方面へのアプローチとして機能するようにする。

●たまたま訪問が休日だったが、交通量は多くないので、回遊性を高める工夫をするか。

●直感的には、交通量から鑑みて全面的な4車線の運用は必要ないと思われる。交差点付近のみ4車運用にして、空いた空間に単線のLRT（駅前～了仙寺）を走らせるのはどうか。観光資源にもなり、寺町との分断も緩和されるはず。

●マイマイ通りは既にできてしまったので、今から参道の分断などを改善するのは難しいと思う。むしろ、この道路によって中心街の他の道路への車の流入が抑制できるので、中心街全体としての歩行者空間をどう充実させるかについて検討するのが良いのではないかな。

今後整備すべき地区全体について●半日で歩ける街の規模の中に、整備されたスポットが埋め込まれ、なにか発見があるような街で楽しかった。こうしたスポットをさらに埋め込んでいくのが良いと思う。なまこ壁も、一部を上手に活用した事例がある一方、景観要素として生かし切れていない場所も見受けられ、少しずつ質を高めていくことが必要と感じた。建物それぞれに花を植えている街路（賀楽太からペリーロードに向かう道）では住民意識の高さも感じ、意識が統一されていくと良いと思った。

5 ■ 下田中心街以外の地区の感想及び提案（オプション）

下田公園●ペリーロードのアジサイもきれいでしたが、下田公園のアジサイは圧巻でした。ここからの下田の街並みの眺めもすばらしく、街歩きのルートとしてももう少し強調しても良いように思います。

下田公園●翌日の朝食前に上りました。下田の町と港が一望にできて、そこに安藤さんの資料にある整備構想を思い浮かべて想像しました。折から満開となったアジサイもとっても綺麗で見事でした。

下田公園●下田公園のアジサイは圧巻でした！

旧下田ドッグエリア●大川端カシッパ〜タからの景観という観点から、少なくとも稲生沢川沿いは何らかの整備が必要だと思う。下田にはまとまった土地がほとんど無いので、十分に検討して有効に活用したいところ。水面に囲まれた立地なので、マリーナ付のリゾート住宅地開発などができると面白いと思う。

道の駅●（すでに朝市等で行われているかもしれませんが）地元の魚やお野菜に加え、地元の方や地元のお店が作ったお惣菜や煮魚が売られ、観光客のみでなく、地元の方も日々の食材を買いに来るようになるともっとにぎわうのではないかと思います。

<参考>みなとのマルシェ・ピアBandai：新潟市の市場です。ビニール袋をぶら下げて帰る女性一人の客も多く、地元の人も来ているようでした。（<https://niigata-kankou.or.jp/spot/10111>）

松崎の町●翌日に松崎温泉郷に寄り道しました。歴史的建造物の保存が進んでいることを確認できました。

松崎の町●翌日は松崎町に行きました。この町もまた現在は衰退しているのですが、下田とは異なった歴史と文化の蓄積を感じるまちでした。このような地方都市で少しずつですが歴史的な建物を修復して、快適な住居にしたり、魅力的な店などに活用したりする例を最近をよく見受けられるようになりました。このような地に足がついたような家づくりまちづくりを見ると、新しい時代の動きをリアルに感じることができます。

松崎の町●美しい海岸線と松並木、那賀川河口のたたずまい等風光明媚な土地である。また、この地はなまこ壁の民家が多く残されていて保存されている。なまこ壁通りを歩いていくと生垣に映えた古民家が美しい。那賀川のときわ大橋を渡ると復元された明治期の時計塔と明治商家中瀬邸に繋がっていく。地元出身で東京居住の方が購入された古民家では、歴史性を活かしたリノベーションを進めており、運よく内部を見学することができた。こうした方が郷土の歴史ある建造物を継承していくことが大切だと感じた。

松崎の町●16年ぶり二度目の訪問でしたが、なまこ壁の建物や蔵、屋敷の塀などがとても立派でした。長八美術館のほか立派な無料公開民家2つを見学し、さらに通りかかった改修中の民家をセルフリノベーション中の当主のご厚意で内覧できました。伝統旧家へのリスペクトにあふれつつモダンな要素も取り入れた内装のセンスがとてもよく、こうした方がいらっしやるのは大変心強いと思いました。

松崎の町●下田の建物のなまこ壁の過剰さには驚いたが、松崎町では建物ばかりでなく塀もなまこ壁になっているのにはちょっと驚いた（伊豆半島以外に、そんな地域はあるのだろうか？）。最近、自らが活動を行う中で、色々な歴まちを意識的にみるようになったが、実用性から離れての過剰なまでのなまこ壁進化は、非常に面白い。そのような風土の中で、松崎町の漆喰文化が醸成されてきたきたのだと思う。

大沢温泉●築300年を超える庄屋屋敷旧依田邸（県指定有形文化財）を見学した。かつては大沢温泉ホテルとして古建築を活かした利用がなされたが、負債を抱え廃業し競売にかけられた。NPOくらしまち継承機構と地元NPO伊豆学研究会が協力して落札し危機を免れた。その後、松崎町の所有となり、土日に無償で見学できるようにしている。重厚な建物だ。

大沢温泉●約300年前の旧庄屋建築（旅館に転用されるも、数年前に廃業）をNPOが取得・公開していました。この豪壮な屋敷と蔵群をよくぞ残すことができたもの、今後どう活用されるのか楽しみです。

下田時計台フロント●下田らしい干物やミルク餅などお土産モノの質が高い。

伊豆急行リゾート21●素晴らしい電車。快適なシートから海を眺望でき、これで料金不要とはうれしい。

山の上●ペリーロードから見上げると山の上に廃墟と化したホテルが見える。こうした観光施設は、眺望の良い土地に建設されるので、一度廃業してしまうと景観阻害要因となってしまう。持続性のある運営や地域との連携を図るなど法的な整備が望まれる。

駐車場の確保●今後、道路の渋滞対策と駐車場の確保が課題になると思われる。旧下田ドックエリアに大規模な無料駐車場を整備して、旧下田ドック～大工町付近～駅前周辺のシャトル・シップを運航するアイデアはどうでしょうか。



松崎町大沢温泉の豪壮な庄屋屋敷・旧依田邸の中庭



伊豆長八ゆかりの松崎町のなまこ壁が続く街並み

6 ■ 下田の街は将来どうあって欲しいと思いますか？ そのためにはどうすればいいのでしょうか？

●下田の人口はこれからも減少すると想定されるので、観光などによる交流人口を増やすことで街の活力を維持するしかないと思う。そのためには、大川端カシッパ〜タとペリーロードを中心に観光的な整備を進めるべきだが、一方で観光客が増加すると街が荒れるので、観光エリアと生活エリアをうまく棲み分ける仕組みや、街として観光客を選別する方策を考える必要があると思う。

●東京からの距離が程よく、踊り子号や展望列車のリゾート21(黒船電車、キンメ電車)が行きやすくしている。南海トラフ巨大地震も想定されているところであるが、防災に強く安全な市街地で、歴史を感じつつゆっくりまち歩きをして、地物の農水産物を食べられるまちであってほしい。

●海と歴史を感じられる街になって欲しい。日本人なら「ペリー」、「下田」、「アメリカ」と連想する。下田駅から中心部を歩くと、ペリー前の下田の歴史とも含めそれが感じられるようになって欲しい。旧町の町割りを感じられるように整備できないか。下田駅については、伊豆急下田という名前はそれほど悪いとは思わないが、「名前を付けさせてあげているのだから、もっと駅をカッコよくしろ！」とのプレッシャーをかけるのも一案だと思う。金目鯛電車、黒船電車というネーミングも、下田があつてのことだ。駅から金目鯛を食べに行く出発点、黒船ゆかりのペリーロードに行く出発点を感じられるよう、抜本的に改良すべき。

●港町としての歴史を伝え、生活感あふれる街であってほしい。「下田まち遺産」については、とても良い取り組みなので、さらに景観法の景観重要建造物や有形登録文化財の指定など、重層的な制度活用を図る。また、伝統的建造物や空き家の活用については、若者起業家を公募するリノベーションまちづくりの手法を活用してはどうでしょうか。

●夜、賀楽太で食事のあと街なかを散歩しました。整備されたスポット以外に、ところどころに食事処や居酒屋があり、暗い町中に明かりが灯り、ハシゴしたくなる気持ちになりました。賀楽太では、お隣が釣りに来た客でしたし、やまね旅館には釣りに来た客が宿泊していました。釣りに来る人や観光客を引き留め、ちょっとのんびりできるまちをつくることのできるのではないかと感じました。

●エキゾチックな港町の雰囲気を活かしつつ、若者を呼び込むまちになって欲しい。

●観光面では、伊豆全体をめぐる起点として再生してほしいと思います。

●伊豆半島の南端にあって自然に恵まれている土地だが、特に中心街はなまこ壁の旧家など歴史伝統資源が多く残り、漁業や水産加工関連の産業生活文化が今も生きている貴重な場である。しかもコンパクトで歩きやすく、個性的な場所が点在しているので回遊性も期待できる。全国の地方都市で失われつつあるこれらの特性を地元住民が大切に継承しつつ、外来者(観光客)もその魅力を享受できるような街であり続けて欲しい。そのためには、こうした価値を住民・行政・業界が改めて認識した上で、将来目標を共有することが必要である。合わせて中心街の現在の生業や人口を維持継続できるように(さらには起業支援や住宅供給も)することも大切である。そうすれば、建物修景や遊歩道整備は自然と進むようになるであろう。

●観光地のポテンシャルは非常に高い一方で、東京からのアクセスに非常に時間がかかるというバランスの中で現在の観光入込客数になっていると考えられる。従って、今後は伊豆縦貫自動車道路の延伸につれて級数的に観光客が増加する可能性がある。このため、早い段階で「まちづくり協定」の整備を目標として、用途制限、建築物の形態・意匠の制限、土地利用等の制限などについて検討しておくべき。矢折れ交差点でも言及したが、特に駐車場については、「出入口を明確にし、出入口以外は仕様に則った塀を設置する」ような規定を置くと良いと思う。

●表面的に観光地として整備されるより、それぞれのやり方でいいので、いろいろな時代の建物が雑多に混じっていて、生き生きと建物が使われているシーンが増えていく方が下田らしいと思う。下田の魅力は物的整備ではなく、営み整備(?)に力を入れた方が生き生きとした魅力的なまち環境になり、結果としてそれが観光客にも楽しく歩けるまちにつながるのでは。



アジサイが満開の下田城址公園から眺める下田の町



水面に睡蓮が咲き白い堂宇が佇む泰平寺の境内

7 ■ 今回の企画全体に対する感想など

●久々に下田の街を歩きました。下田の中心街は、ほとんどの建物が敷地いっぱい建築され、それらが連続して街並みを構成していて、ヨーロッパの街並みに似ているようにも見えます。また、主な道路は、寺や神社の参道となっていたり、道路の正面には山や建物などのアイストップが随所にあたりなど、街の空間構成について考えながら歩くのも、なかなか面白い体験でした。安藤さんと下田市の方々の丁寧な説明、賀楽太の美味しい魚と酒、やまね旅館の親切な対応と心地よい温泉など、本当に充実した街歩きでした。(K/T)

●安藤様、下田市役所のみなさま、ありがとうございました。とても楽しく歩かせていただきました！(U/T)

●安藤さん、市の鈴木主事、中島技師に雨の中ご案内いただき感謝しています。安藤さんの建築のセンスの良さ、地道にまちづくりに取り組む姿、その成果に感銘しました。まちづくりに建築家の果たす役割の大きさを再認識しました。(Y/Y)

●念願かなっての下田街歩きでした。ペリーロード以外にも素敵な空間がたくさんあり、発見の多い街歩きでした。少しずつ整備が進んでいるのを実感しました。泰平寺のデザインも秀逸で、下田らしいデザインされたスポットがこれから増えていってほしいと思いました。短い時間でしたが、とても濃密な街歩きができました。企画いただいた安藤さん、ありがとうございました。(F/M)

●下田の街を歩いたのは初めてで、雨ではあったが楽しめました。晴れの日も見たかったので、後日、復習も兼ねて再訪しました(再訪時には、鯉節を購入しました)。「アケゴゴロ」のような発掘もまだまだ期待できそうです。また、昭和湯、干物など、次の楽しみがあるので、「ペリリ提督日本遠征記」を読んで、再訪したいと思っています。安藤さん、鈴木さん、中島さん、雨の中、ご案内いただき、ありがとうございました。(K/Y)

●今回の企画のおかげで、50年近い人生で初めて、伊豆半島を旅行して宿泊する機会を持ちました。ありがとうございました。(N/T)

●日帰りでしたが、下田の歴史ある旧市街地の町並みを活かす仕掛けや取り組みを知ることができました。雨の中、ご案内いただいた下田のまちづくりの重鎮である安藤さん、そして市役所の若手職員の鈴木さん、中島さんに感謝です。重鎮と若手の組合せがとてもいいなあと感じました。(H/M)

●下田は初めてでしたが、期待以上に面白く、とても充実した企画だったと思います。安藤さま、ありがとうございます。下田まで行くのだったら、旧天城トンネルは外せなかったのですが、公共交通の便が悪すぎて断念しました。今年度末には、伊豆縦貫自動車道が河津～逆川間で供用開始する様ですので、来年度には是非、自動車以南伊豆を再訪したいと思います。(M/Y)

●関係者のお陰で時間の短い中、適切にまちを見ることができた。特に安藤さんに案内していただいたおかげで、建物の中まで入れて解説を聞いたのが貴重な機会だった。また下田市の職員の方が一緒だったのも考えが聞けて良かった。(N/M)

●久しぶりの下田訪問でしたが、中心街の特性は変わらず、さらに魅力が増していると感じました。特にペリーロード以外にも拠点整備がセンス良く進み、回遊性の兆しが見えてきました。また、昼食処や懇親会場、宿泊旅館もとても素敵でした。あいにくの小雨でしたが予定のコースを歩き、翌日は晴天の下田公園や松崎の町を楽しむことができました。ご準備・ご案内いただいた安藤さんと下田市役所のお二方に深く感謝いたします。次に下田を訪問する機会を楽しみにしております。(O/R)



下田の町を歩き終わって、ペリーロードの終点・了仙寺にて



下田らんぷ亭での朝食・ひもの定食